

2023年6月11日

「隣人を自分のように愛しなさい」

マタイによる福音書 22:34-40

竹島 敏牧師

今日は子どもの日・花の日礼拝です。礼拝堂の中にも教会の花壇にも色々な色や形、大きさの花があって、それぞれにきれいで、可愛らしく素晴らしいと思います。その中でも好きな色、好きな形はありますが、どれが一番良いか、立派か、など決めなくてよいのです。色々な違いのある花があるからこそ美しい花束ができ、人を和ませたり慰めたりできるのです。人間も同じです。神様はご自分の姿に似せて人を作られたと聖書は伝えています。人にも色々な違いがあって、みんな神様が一人ひとりを色々な違いのある素晴らしい人としてこの世界に送り出し、出会わせてくださっています。みんな、神様が備えて下さった特別な一人ひとりなのだ、そのことを心に想いつつ、色々な違いのあるお友だちを大切にしていって、それが「隣人を自分のように愛する」ということなのだと思います。そして違いがあるからこそ、一人ではできなかったことを、色々な力を合わせて完成させることもできるのです。子どもの頃、クラスのみんなから「話せない子」と思われていた私に、にこにこ話しかけ、友だちになってくれた子が一人いました。昼休みや体育の時間は二人だけ教室で静かに過ごすことが多く、その子は激しくせき込みながらも、いつも楽しそうに話しかけてくれました。私はいつもぼーとした感じで、首を縦か横に振るだけでしたが、その子にほっと慰められてきました。その子と一緒に過ごした静かな時間は、数か月で終わってしまいました。しかし、短く儂い命の花も、人の心の中にその姿と力を残し、人を立ち上がらせ導く元となると思うのです。それぞれに違っているところを輝かせ合って、素敵な花束のようになれるように。